

Open!
Meiji



第149期 中間期
株主レポート

平成19年4月1日～平成19年9月30日

● 経営の基本方針

当社グループは、「食と健康」に関わるライフサイエンス事業領域を基盤とし、長年培ってきた技術や **Meiji** ブランドを最大限に活かしながらグローバルな企業として、お客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、常に「おいしい・楽しい、健康、安心」を追求するとともに、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

CONTENTS

株主の皆様へ	1
事業の概況（連結）	2
中間連結貸借対照表	6
中間連結損益計算書／中間連結キャッシュ・フロー計算書 ／中間連結株主資本等変動計算書	7
中間貸借対照表（単独）	8
中間損益計算書（単独） ／中間株主資本等変動計算書（単独）	9
業績の推移／連結子会社	10
役員／従業員／主要な事業所	11
新製品紹介	12
トピックス	14
株式の状況	17

DASH!08（06-08中期経営計画）

- 1** **Meiji** ブランドが、「おいしい・楽しい」「健康」「安心」というイメージで、お客様から広く認知されている。
- 2** 健康事業の育成を最優先課題とし、薬品カンパニーとの連携も含めた食薬兼業の強みを活かせるビジネスモデルを確立している。
- 3** ジェネリック（後発医薬品）事業を感染症・中枢神経系領域に並ぶ柱として強化し、「スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ」という新しいモデルを確立している。
- 4** 海外事業を大幅に強化し、国内と同等の売上を海外で稼ぎ出すための足がかりを築いている。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は平成19年9月30日をもちまして、第149期事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の上半期を終了いたしましたので、事業の概況等をご報告申し上げます。

当中間期における当社グループの業績は、後掲の「事業の概況」にも記載のとおり、事業を取り巻く環境は、原油価格や原材料価格の高騰などの影響で、大変厳しい状況ではありましたが、おかげさまで前年同期比増収増益を達成し、売上高は過去最高を更新することができました。

今年度は中期経営計画「DASH!08」の2年目にあたる重要な年ではありますが、この中期経営計画を達成するために、引き続き新たな需要を開拓する成長戦略と利益確保を目指し、「攻め」と「守り」のバランスのとれた取組みを推進してまいります。

フード&ヘルスケア事業におきましては、原材料価格の高騰をはじめ極めて厳しい環境下にあります。菓子事業では、引き続き「大人向け市場」の活性化を進めるとともに、新しい市場開拓や独創的な新商品開発と既存ブランドを活かした強力なマーケティング活動を展開し、チョコレート・ガム市場におけるシェアのさらなる拡大を目指してまいります。また、健康事業では、既存の主力ブランドを徹底的に強化するとともに、新規素材や機能商品の育成を進め、さらに、通信販売への取組みを積極的に推進し、事業規模の拡大に努めてまいります。

薬品事業におきましては、主力の感染症領域におけるさらなるシェア拡大と、成長が続く中枢神経系領域での

専任MR（医薬情報担当者）の要員増強など営業力の強化を進めるとともに、第3の柱としてのジェネリック（後発医薬品）事業を拡大してまいります。また、現在申請中の医薬品2品目の早期上市と、研究開発の効率化・スピードアップを図ってまいります。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株につき金3円50銭と決定させていただきましたので、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月



代表取締役
社 長 佐藤尚忠

事業の概況（連結）

（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）

当中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の増加などから景気は回復基調にあるものの、製造業を取り巻く環境は、原油価格や原材料価格の上昇により、厳しい状況にあります。

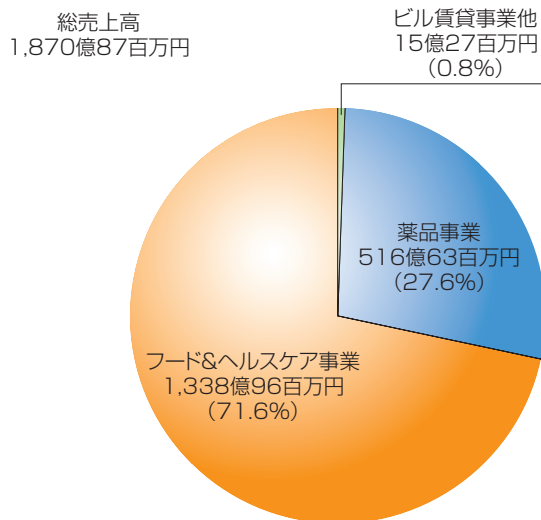
このような事業環境下、当社グループは、2008年度（2009年3月期）を最終年度とする中期経営計画「DASH! 08」を達成するために、菓子需要を喚起する新規性の高い商品開発や「健康」「海外」「ジェネリック医薬品」の重点分野を中心に戦略投資を行うなど、全グループ一丸となって取り組んでまいりました。

この結果、当中間期における連結売上高は1,870億87百万円（前年同期比1.7%増）、連結中間純利益は24億円（同182.7%増）となりました。

当社グループの事業別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当中間期の連結子会社は、10ページに記載しております。

●売上高構成比（当中間期）



フード&ヘルスケア事業の連結売上高は1,338億96百万円（前年同期比0.9%増）となりました。なお、当中間期より、明治制菓（上海）有限公司および明治制菓食品工業（上海）有限公司を連結子会社としております。

主力の菓子事業につきましては、引き続き「大人向け市場」の活性化を図り、機能性のみならず高級・風味などをキーワードに付加価値の高い商品を発売する一方、「おいしい・楽しい」という菓子本



来の価値を訴求する商品の発売や各カテゴリーの充実を図った結果、前年同期の売上を上回り過去最高となりました。



品目別では、チョコレートは、母の日に関連する販促活動により主力の「ミルクチョコレート」が増売となったほか、「アーモンドチョコレート」「マカダミアチョコレート」などが好調に推移しましたが、「チョコレート効果」の減売が響き、全体では減収となり



ました。ガムは、発売10周年に伴い「キシリッシュ」を全品リニューアルし、テレビCMおよび積極的な販促活動を展開した結果、大幅に伸長しま



した。キャンデーは、好調なグミ市場にあって、主力の「果汁グミ」「ぶぶるん」が大幅に伸長しました。

健康事業につきましては、店頭での露出拡大と機能情報発信による主力ブランドの拡大・育成に取り組みましたが、前年同期並みの売上となりました。

品目別では、「アミノコラーゲン」は、コラーゲン市場の競争激化により減売を余儀な



くされました。「ザバス」は、“水に溶ける”を追求した「ザバスアクアプロテイン」が好調に推移するとともに、プロサッカーチームの浦和レッズとのトップパートナーシップが認知の拡大を促し、大幅な増売となりました。一般用医薬



品の「イソジンうがい薬」は、店頭での露出強化に加え、企画商品「イソジンうがい薬 カバくん計量スタンド付き」も売上に寄与し、増売となりました。



海外事業につきましては、輸出は、米国・フィリピン等の主要マーケットへのチョコレートの販売が堅調に推移するとともに、アジア市場におけるコンビニエンスストアへの取組みを強化し、また、「アミノコラーゲン」を中心に健康事業分野の輸出も拡大し、前年同期を上回りました。輸入は、主力商品の「スナイダーズ」が順調に推移したものの、高カカオチョコレートが苦戦し、前年同期を下回りました。

業務用食材事業につきましては、製菓材（チョコレート・ココア関連商品）は、外食チェーン・コンビニエンスストア・テーマパークへの積極的な商品提案が奏功し、また、食材も農産品や冷凍果実・果汁が順調に売上を伸ばした結果、前年同期を上回りました。

連結子会社の業績につきましては、国内では、株式会社明治フードマテリアは、糖化穀粉事業が好調に推移し増売となりました。また、株式会社明治スポーツプラザは、株式会社フォレストクリエーションが経営するフィットネスクラブを譲り受け、本年5月より営業を開始し業容の拡大に努めております。海外では、

■菓子事業主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ショコライフ、ブラック、ハイミルク、ホワイト、ストロベリー、ノワール、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、マカダミア、フラン、きのこの山、たけのこの里、北海道チョコポテト、パンキー、ガルボ、レガ、ショパン、ブッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソートほか）、ガム（キシリリッシュほか）、キャンデー（チエルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、KAON、ポイフル、キュン、ぶぶるん、もぎもぎフルーツ、サイコロキャラメルほか）、スナック（カール、カールスティック、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）

明治製菓シンガポール社は、主力の「ヤンヤン」「ハローパンダ」が現地市場および近隣諸国で順調に伸長するとともに、「プッカ」の製造・販売も開始し、大幅な増収となりました。一方、米国スタウファー・ビスケット社は、競争激化により減収となりました。また、新たに連結子会社とした明治製菓（上海）有限公司は、売上が順調に拡大しております。

以上の結果、連結子会社全体としては、前年同期並みの売上を確保しました。

■健康事業（一般用医薬品含む）・業務用食材事業主要製品 —
アミノコラーゲン、ザバス、カシス-i、ローラ、パーフェクトプラス、プロテインダイエット、GF2顆粒、嗜好飲料（テオプロ、ミルクココア、ハイレモンドリンクほか）、レトルトカレー（銀座カリー、銀座ハヤシ、銀座カリー上・ビーフほか）、まるごと野菜、調理食品（JALスープ、銀座スープほか）、農産缶詰
イソジンうがい薬、イソジンのどフレッシュF、解熱鎮痛薬バイエルアスピリン、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルビックS顆粒、ミニドリンク剤活蔘28ほか
業務用菓子・食品材料、砂糖、糖化製品ほか

薬品事業の連結売上高は516億63百万円（前年同期比3.7%増）となりました。

医療用医薬品につきましては、主力の抗菌薬「メイアクト」が、きめ細かな学術普及活動と積極的な営業活動を展開した結果、大幅な増売となりました。また、外用消毒剤「イソジン」、抗菌薬「ホスミシン」「ハベカシン」は減売を余儀なくされましたが、抗うつ薬「デプロメール」、アレルギー性疾患治療薬「エバステル」は好調に推移しました。ジェネリック医薬品は、抗菌薬「バンコマイシンMEEK」の大幅な増売に加え、昨年7月以降に発売した6製品、および本年7月に新たに発売した抗精神病薬「リスペリドンMEEK」等5製品の売上が寄与し、大幅に伸長しました。

農薬は、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が、いもち病の発生が少なかったこと、およびいもち病耐性稲の普及により、前年同期を下回りました。また、動物薬は、コンパニオンアニマル用薬では、鎮静・鎮痛剤の販売ライセンス返還により減売を余儀なくされましたが、家畜用薬および水産用薬がともに順調に推移し、前年同期並みの売上を確保しました。



海外事業につきましては、主力の「メイアクト」が発売国の増加等により好調に売上を伸ばし、加えて抗菌薬「ミオカマイシン」「メデマイシン」「メイセリン」が積極的な営業活動により大幅な増売となり、順調に推移しました。

連結子会社の業績につきましては、国内では、北里薬品産業株式会社は、はしかの流行により麻しんおよびMRワクチンが大幅な増売となり、また、医療ニーズの高まりから販売再開となった日本脳炎ワクチンの売上も寄与し、全体で増売となりました。海外では、東南アジアのP.T.メイジ・インドネシア社およびタイ・メイジ社は、「メイアクト」、飼料添加物「コリスチン」を中心とした現地向け販売が堅調に推移しました。また、スペインのテデック-メイジファルマ社は、全体では減収となりましたが、「メイアクト」の大幅な増売と為替の影響により、前年同期並みの売上を確保しました。

以上の結果、連結子会社全体としては、前年同期を上回り好調に推移しました。



■薬品事業主要製品

医療用 医薬品	抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシンほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒剤イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍剤テラルピシン、抗ウイルス化学療法剤ビクロックス、気管支拡張剤ツロブテロールテープほか）、人体用ワクチン
農薬 動物薬	農薬（Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、アグレプト、ジベレリンほか）、動物薬（メイポール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、ポセイドン、マリンバンテル、パナメクチンチュアブルP、ウェルメイトL3ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか）

ビル賃貸事業他

ビル賃貸事業他としての連結売上高は15億27百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

大都市圏におけるオフィスビルの市況は、好調な業績に支えられ、企業の事業拡大意欲が強く、オフィス拡張のための借り換え需要が増加しております。主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」も、既存テナントの増床により入居率がさらに上昇したことに加え、賃料の増額改定が奏功し順調に推移しました。



ソリッドスクエアビル

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前 期 (平成19年3月31日現在)	科 目	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前 期 (平成19年3月31日現在)
資産の部	341,384	351,514	負債の部	181,394	188,750
流動資産	144,075	152,457	流動負債	90,933	115,498
現金および預金	8,769	14,773	支払手形および買掛金	32,476	34,902
受取手形および売掛金	75,982	84,365	短期借入金	17,705	21,297
たな卸資産	46,698	43,180	社債(1年以内償還)	—	20,000
繰延税金資産	4,640	4,862	コマーシャルペーパー	4,500	4,500
その他	8,071	5,298	未払費用	13,719	13,414
貸倒引当金	△ 86	△ 22	未払法人税等	1,310	1,834
固定資産	197,308	199,057	賞与引当金	3,993	4,278
有形固定資産	145,170	137,041	返品調整引当金	300	340
建物および構築物	73,574	70,789	売上割戻引当金	4,708	5,591
機械装置および運搬具	38,678	35,712	その他の他	12,218	9,340
工具器具備品	2,283	2,033	固定負債	90,461	73,251
土地	24,413	24,089	社債	40,000	20,000
建設仮勘定	6,221	4,415	長期借入金	19,289	17,130
無形固定資産	6,823	7,260	長期繰延税金負債	13,632	15,810
のれん	3,245	3,484	退職給付引当金	13,853	16,504
その他	3,578	3,776	役員退職慰労引当金	233	295
投資その他の資産	45,314	54,754	その他の他	3,452	3,510
投資有価証券	40,739	46,937	純資産の部	159,990	162,763
長期繰延税金資産	308	291	株主資本	141,585	140,999
その他	5,187	8,712	資本金	28,363	28,363
貸倒引当金	△ 921	△ 1,186	資本剰余金	34,948	34,949
資産合計	341,384	351,514	利益剰余金	81,793	81,173
			自己株式	△ 3,520	△ 3,485
			評価・換算差額等	14,666	18,107
			その他有価証券評価差額金	12,741	17,245
			繰延ヘッジ損益	803	816
			為替換算調整勘定	1,121	44
			少数株主持分	3,738	3,656
			負債および純資産合計	341,384	351,514

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 225,971百万円 221,935百万円
 2. 受取手形割引高 30百万円 102百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	(平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
売上高	187,087	183,995
売上原価	109,096	104,420
返品調整引当金戻入額	40	20
売上総利益	78,030	79,594
販売費および一般管理費	74,314	77,206
営業利益	3,716	2,387
営業外収益	1,442	1,455
受取利息・配当金	709	761
持分法による投資利益	27	33
その他の営業外収益	705	660
営業外費用	1,470	1,219
支払利息	732	652
その他の営業外費用	737	567
経常利益	3,688	2,623
特別利益	1,855	240
固定資産売却益	1,371	185
投資有価証券売却益	423	—
その他の特別利益	61	54
特別損失	677	1,000
固定資産廃棄損	564	866
その他の特別損失	112	134
税金等調整前中間純利益	4,867	1,863
法人税、住民税および事業税	1,165	994
過年度法人税等戻入額	—	605
法人税等調整額	1,160	400
少数株主利益	140	224
中間純利益	2,400	849

(注) 1株当たりの中間純利益 6円33銭 2円23銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	(平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	6,120	4,129
投資活動による キャッシュ・フロー	△10,059	△ 8,639
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 3,071	△ 2,846
現金および 現金同等物に係る換算差額	△ 14	△ 71
現金および 現金同等物の増減額(減少：△)	△ 7,024	△ 7,427
現金および 現金同等物の期首残高	14,513	18,755
新規連結による現金 および現金同等物増加額	443	2
現金および 現金同等物の中間期末残高	7,932	11,330

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				少数株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資本 剰余金	利 益 剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前 期 末 残 高	28,363	34,949	81,173	△ 3,485	140,999	17,245	816	44	18,107	3,656	162,763
当中間期変動額											
剰余金の配当			△ 1,327		△ 1,327						△ 1,327
中間純利益			2,400		2,400						2,400
自己株式の取得				△ 37	△ 37						△ 37
自己株式の処分		△ 0		3	3						3
連結子会社の増加による剰余金減少高			△ 453		△ 453						△ 453
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)						△ 4,504	△ 13	1,076	△ 3,441	81	△ 3,359
当中間期変動額合計	—	△ 0	620	△ 34	585	△ 4,504	△ 13	1,076	△ 3,441	81	△ 2,773
当中間期末残高	28,363	34,948	81,793	△ 3,520	141,585	12,741	803	1,121	14,666	3,738	159,990

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間貸借対照表(単独)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 <small>(平成19年9月30日現在)</small>	前 期 <small>(平成19年3月31日現在)</small>	科 目	当中間期 <small>(平成19年9月30日現在)</small>	前 期 <small>(平成19年3月31日現在)</small>
資産の部	308,057	316,981	負債の部	162,825	168,436
流動資産	119,908	125,796	流動負債	77,483	100,332
現金・預金	4,422	7,004	買掛金	27,136	29,044
受取手形および売掛金	62,649	71,180	短期借入金	12,863	17,348
商品・製品・半製品	24,584	25,349	社債(1年以内償還)	—	20,000
原材料	12,192	9,653	コマーシャルペーパー	4,500	4,500
仕掛品	1,706	1,441	未払金	10,394	7,195
繰延税金資産	3,808	4,000	未払費用	10,970	10,846
その他の流動資産	10,547	7,174	未払法人税等	666	939
貸倒引当金	△ 3	△ 8	賞与引当金	3,470	3,788
固定資産	188,148	191,184	返品調整引当金	300	340
有形固定資産	121,618	118,131	売上割戻引当金	4,708	5,591
建物および構築物	62,879	63,854	その他の流動負債	2,473	737
機械装置	29,491	28,464	固定負債	85,342	68,104
車両運搬具	94	99	社債	40,000	20,000
工具器具備品	1,605	1,657	長期借入金	16,377	14,209
土地	21,637	21,340	長期繰延税金負債	12,836	15,024
建設仮勘定	5,910	2,715	退職給付引当金	12,981	15,603
無形固定資産	3,072	3,390	役員退職慰労引当金	206	270
投資その他の資産	63,457	69,662	その他の固定負債	2,939	2,996
投資有価証券	38,056	44,104	純資産の部	145,231	148,545
関係会社株式	15,761	15,856	株主資本	132,057	130,898
出資金	509	511	資本金	28,363	28,363
関係会社出資金	5,443	5,443	資本剰余金	34,948	34,949
長期貸付金	3,137	3,139	資本準備金	34,935	34,935
その他の投資	1,727	1,785	その他資本剰余金	13	13
貸倒引当金	△ 1,178	△ 1,178	利益剰余金	72,264	71,071
資産合計	308,057	316,981	利益準備金	7,090	7,090
			その他利益剰余金	65,173	63,980
			固定資産圧縮積立金	20,920	20,920
			別途積立金	39,000	36,500
			繰越利益剰余金	5,253	6,560
			自己株式	△ 3,520	△ 3,485
			評価・換算差額等	13,173	17,646
			その他有価証券評価差額金	12,370	16,829
			繰延ヘッジ損益	803	816
			負債および純資産合計	308,057	316,981

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 200,883百万円 198,427百万円
 2. 受取手形割引高 30百万円 102百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書(単独)

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	科 目	当中間期	前中間期
	(平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)		(平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
売上高	136,577	134,463	特別利益	1,838	230
売上原価	67,459	65,479	固定資産売却益	1,356	181
返品調整引当金戻入額	40	20	投資有価証券売却益	423	—
売上総利益	69,157	69,003	その他の特別利益	58	49
販売費および一般管理費	67,012	68,869	特別損失	677	844
営業利益	2,145	134	固定資産廃棄損	482	839
営業外収益	2,151	2,123	関係会社株式評価損	99	—
受取利息・配当金	1,462	1,418	その他の特別損失	94	4
雑収入	689	704	税引前中間純利益	4,127	579
営業外費用	1,329	1,064	法人税、住民税および事業税	495	61
支払利息	651	548	過年度法人税等戻入額	—	597
雑損	678	516	法人税等調整額	1,112	477
経常利益	2,967	1,192	中間純利益	2,520	638

(注) 1株当たりの中間純利益

6円65銭

1円68銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書(単独)

(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)

(単位：百万円)

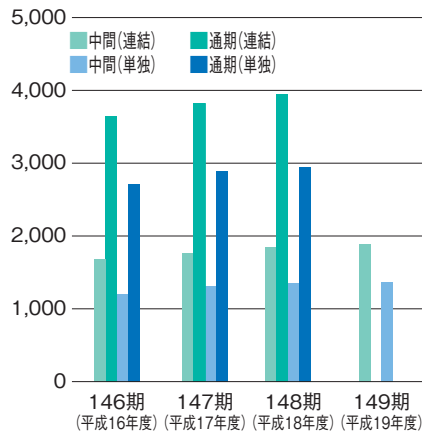
	株 主 資 本									評価・換算差額等				純資産 合 計	
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			自己 株式	株主資本 合 計	その 他 有価証券 評価差額金	繰 延 ヘッジ 損 益	評価・換算 差額等合計		
		資 本 準 備 金	その 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計		固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金							利 益 剰 余 金 合 計
前期末残高	28,363	34,935	13	34,949	7,090	20,920	36,500	6,560	71,071	△ 3,485	130,898	16,829	816	17,646	148,545
当中間期変動額															
剰余金の配当								△ 1,327	△ 1,327		△ 1,327				△ 1,327
別途積立金積立額						2,500	△ 2,500	—			—				—
中間純利益								2,520	2,520		2,520				2,520
自己株式の取得										△ 37	△ 37				△ 37
自己株式の処分			△ 0	△ 0						3	3				3
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)												△ 4,459	△ 13	△ 4,472	△ 4,472
当中間期変動額合計	—	—	△ 0	△ 0	—	—	2,500	△ 1,306	1,193	△ 34	1,158	△ 4,459	△ 13	△ 4,472	△ 3,313
当中間期末残高	28,363	34,935	13	34,948	7,090	20,920	39,000	5,253	72,264	△ 3,520	132,057	12,370	803	13,173	145,231

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

業績の推移

売上高

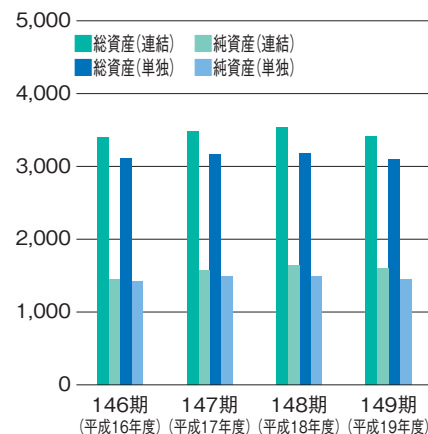
(単位：億円)



中間(連結)	1,677	1,760	1,839	1,870
通期(連結)	3,640	3,824	3,938	—
中間(単独)	1,207	1,312	1,344	1,365
通期(単独)	2,715	2,891	2,946	—

総資産・純資産

(単位：億円)

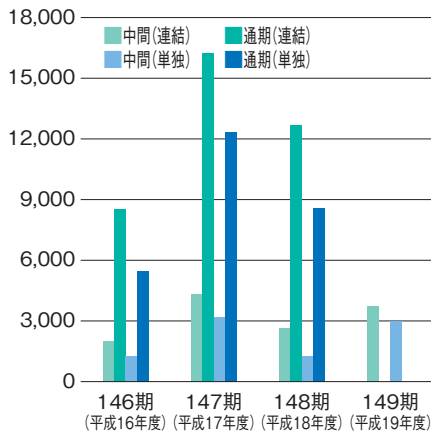


総資産(連結)	3,398	3,482	3,515	3,413
総資産(単独)	3,113	3,166	3,169	3,080
純資産(連結)	1,448	1,577	1,627	1,599
純資産(単独)	1,382	1,492	1,485	1,452

(注) 各期末日現在。ただし、149期(平成19年度)は9月30日現在。

経常利益

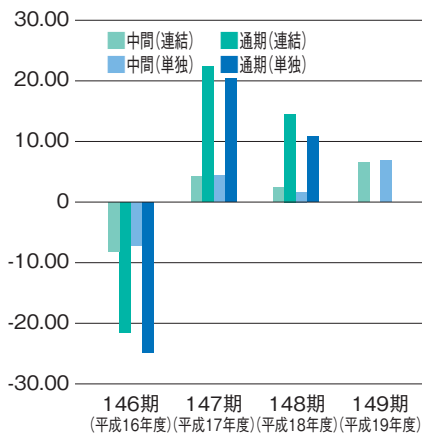
(単位：百万円)



中間(連結)	1,992	4,300	2,623	3,688
通期(連結)	8,503	16,160	12,627	—
中間(単独)	1,276	3,189	1,192	2,967
通期(単独)	5,450	12,254	8,518	—

1株当たりの純利益

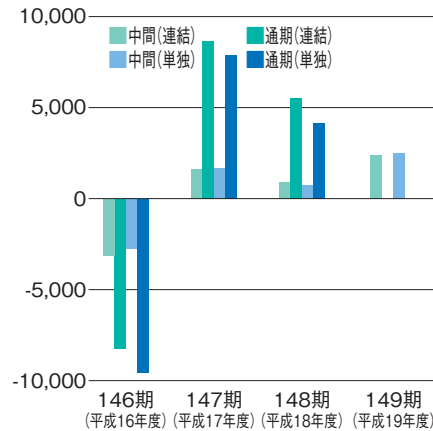
(単位：円)



中間(連結)	△ 8.14	4.25	2.23	6.33
通期(連結)	△21.53	22.41	14.39	—
中間(単独)	△ 7.21	4.38	1.68	6.65
通期(単独)	△24.90	20.34	10.66	—

純利益

(単位：百万円)



中間(連結)	△3,119	1,630	849	2,400
通期(連結)	△8,240	8,678	5,480	—
中間(単独)	△2,763	1,682	638	2,520
通期(単独)	△9,545	7,876	4,061	—

連結子会社

- 株式会社明治フードマテリア
- 道南食品株式会社
- 蔵王食品株式会社
- 株式会社山口
- 明治産業株式会社
- 明治チユーインガム株式会社
- 株式会社アステカ
- 岡山県食品株式会社
- 四国明治株式会社
- 太洋食品株式会社
- 株式会社明治スポーツプラザ
- 北里薬品産業株式会社
- Meiji Seika (Singapore) Pte. Ltd. (シンガポール)
- Cecilia Confectionery Pte.Ltd. (シンガポール)
- Five Stars Dairy Ingredients Pte.Ltd. (シンガポール)
- D.F.Stauffer Biscuit Co., Inc. (米国)
- Laguna Cookie Co., Inc. (米国)
- 明治制菓(上海)有限公司(中国)
- 明治制菓食品工業(上海)有限公司(中国)
- P.T. Meiji Indonesian Pharmaceutical Industries (インドネシア)
- Thai Meiji Pharmaceutical Co., Ltd. (タイ)
- Tedec-Meiji Farma S.A. (スペイン)
- Mabo Farma S.A. (スペイン)
- Meiji Seika Europe B.V. (オランダ)

(備考) 当中間期の当社グループの連結範囲は、上記連結子会社24社のほかに、持分法適用会社が2社あります。

役員

(平成19年9月30日現在)

●取締役および監査役

※	代表取締役	佐高	藤橋	尚昭	忠男
※	代表取締役	高橋	崎尾	正正	喜彦
※	専務取締役	長松	崎尾	治政	彦彦
※	専務取締役	松塚	西長	宏幸	信幸
※	専務取締役	森溝	口	祥英	史彦
※	常務取締役	矢工	嶋藤	利知	敏正
※	常務取締役	森野	井島	夏秀	一秀
※	常務取締役	狩山	口	維健	一健
	取締役				
	常任監査役				
	常任監査役				
	監査役				
	監査役				

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

●執行役員

常務執行役員	真壁	理樹
常務執行役員	高橋	秀美
常務執行役員	佐藤	榮一
執行役員	入江	文雄
執行役員	横路	論紀
執行役員	中小	村野
執行役員	小河	野良
執行役員	中野	通慎
執行役員	荒森	幾二
執行役員	小松	隆雄
執行役員	浅田	隆造
執行役員	内田	仁央
執行役員	下田	容晴
執行役員	木下	坂男
執行役員	上古	川文保

従業員

(平成19年9月30日現在)

従業員数(前期比)	平均年齢	平均勤続年数
3,915名 (11名増)	40.0歳	16.7年

(注) 従業員数には当社から他社への出向者が含まれており、臨時従業員は含まれておりません。

主要な事業所

(平成19年9月30日現在)



東京都中央区京橋二丁目4番16号



フード&ルケア / 北海道統括支店(札幌)、東北統括支店(仙台)、首都圏統括支店(東京)、北関東統括支店(宇都宮)、中部統括支店(名古屋)、関西統括支店(大阪)、中四国統括支店(広島)、九州統括支店(福岡)、健康事業北海道支店(札幌)、健康事業東北支店(仙台)、健康事業首都圏支店(東京)、健康事業北関東支店(宇都宮)、健康事業中部支店(名古屋)、健康事業関西支店(大阪)、健康事業中四国支店(広島)、健康事業九州支店(福岡)
薬品 / 薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店(さいたま)、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店(広島)、薬品四国支店(高松)、薬品福岡支店、農薬札幌支店ほか5農薬支店、動薬北日本支店(仙台)ほか3動薬支店



フード&ルケア / 関東工場(坂戸)、東海工場(藤枝)、大阪工場(高槻)
薬品 / 北上工場、小田原工場、岐阜工場(北方)



フード&ルケア / 食料健康総合研究所(坂戸)
薬品 / バイオサイエンス研究所(小田原)、医薬総合研究所(横浜)、生物産業研究所(横浜)



マドリッド事務所、北京事務所

(注) () 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。

フード&ヘルスケア

●パンキーミルク

サクサクした香ばしいパン素材を口どけの良いチョコレートに練りこみました。シャリシャリとした食感とクリーミーな口どけの良いチョコレートとのコントラストが特長です。



井上 真央



●フランアロマティエ 森いちご

ココア練り込みビスケットの軸をホワイトホイップチョコと摘みたてのような鮮烈な香りの森いちごチョコでコーティングしました。森いちごの香りが楽しめます。



沢尻 エリカ

●ぶどう糖チョコレートミルク

砂糖の半分以上をぶどう糖に置き換えた『考える』エネルギーの補給をテーマにしたチョコレートで、「スポーツする時」や「勉強する時」など新しい食シーンを訴求する提案型商品です。



●キシリッシュ+F フレッシュアップル

日本で初めて緑茶フッ素を配合し、フッ素コーティングで虫歯になりにくい状態にする板ガムです。特定保健用食品として認可されており、味はジューシーなアップル風味のライトミント味です。



宮里 藍

●果汁グミぶぶるん ライチ

ぷるぷる柔らかなセンターグミをゼラチングミで包んだダブル食感グミです。味は果物の女王とよばれるライチ味で、女性に関心の高いコラーゲンを1袋に1,500mg配合しました。



相沢 紗世

●北海道チョコポテト

北海道生まれのポテトスナックにチョコをコーティングした、“甘み”と“塩み”の絶妙なバランスを味わえるサクサク食感のチョコスナックです。(北海道・東北・関東・甲信越・静岡地区発売)



稲垣 吾郎

●銀座シチュウホワイト

銀座ブランドから洋食屋の白いシチュウが誕生。生クリーム仕上げのなめらかなソースにからまる、やわらかな鶏もも肉は格別です。本格洋食の味わいが実感できます。



●テオブロココアP-800

厳選したカカオ豆と当社が誇る高度な技術を駆使し、他にはない高濃度ポリフェノールを実現。カカオ分72%配合のビター感のある深い味わいで、1杯でポリフェノール800mgが補給できます。



●パーフェクトプラス 即攻元気ケーキ

人気の「即攻元気ゼリー」が“アミノ酸とローヤルゼリーで即攻元気！”というコンセプトはそのままにケーキバーになりました。7種のビタミン、アミノ酸、ローヤルゼリーにカフェインを配合し、ゼリーに合わせた栄養ドリンク味に仕上げました。



●パーフェクトプラス おからの入ったダイエットビスケット

ダイエット素材として話題の“おから”を配合したヘルシーなビスケットです。1袋食べても100kcalで食べ過ぎる心配のないカロリー設計に加え、ダイエット中に不足しがちなビタミンなどの栄養成分もしっかり配合しています。



●イソジンウイルス立入禁止マスク

「イソジンうがい薬」の有効成分であるポピドンヨードを化学結合させた「3Dイソジンフィルター」内蔵型のマスクです。ポピドンヨードのパワーで飛沫中のウイルス・細菌を99.9%ブロックし、風邪やインフルエンザ対策に役立ちます。

薬局・薬店でお求めになれます。



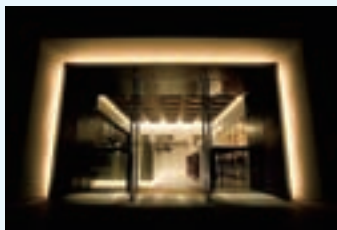
Meijiブランドが「フレンドリー（親しみ）部門」1位を獲得！

日経BPコンサルティングのブランドイメージ調査「ブランド・ジャパン2007」の「フレンドリー（親しみ）」という項目で、全ての企業・商品のブランドを抑えて当社が1位となりました。「消費者から見た総合力」でも26位（昨年92位）という高順位になり、食品・飲料の分野では7位につけています。総合力による順位づけは、「革新」「卓越」「フレンドリー」「便利」という4つの面からのスコアを総合的に算出してつけられます。当社がその中の「フレンドリー」という項目で1位を獲得したことは、お客様が、当社の提供する商品やサービス、メッセージ等を通じて当社の存在をどこよりも身近に感じていただいていることに他なりません。

中期経営計画「DASH! 08」の中で、**Meiji**ブランドが「おいしい・楽しい」「健康」「安心」というイメージでお客様から広く認知されている、をビジョンとして掲げており、今回のブランド調査で、特に「フレンドリー」という項目で1位を獲得したことは大変意義のあることだといえます。



「手作りチョコ」キャンペーンの展開や大人を意識した「チョコレート効果」「ショコライフ」の発売、「100%チョコレートカフェ」での新しいチョコレート体験等「チョコレートは明治」を強く打ち出すことにより、顧客層の裾野を広げ、新しい市場を創っていく挑戦など、様々な取組みを行ってきました。このような取組みがお客様に認められ、広く深く受け入れられている証と考えております。



ブランド調査 「ブランド・ジャパン2007」

フレンドリー（親しみ）

- ・とても好きである
- ・親しみを感じる
- ・なくなると寂しい
- ・共感する
- ・フィーリングが合う

順位	ブランド名	スコア
1	明治製菓	85.2
2	サントリー	82.3
3	カップヌードル	82.1
4	江崎グリコ	81.9
5	麒麟ビール	81.8
6	無印良品	81.7
7	ディズニー	80.9
8	コカ・コーラ	79.6
9	カルピス	79.5
10	カルビー	79.4

出典：日経ビジネス2007年4月23日号

うつ病治療薬「ミルタザピン」を製造販売承認申請

本年7月3日、日本オルガノン株式会社と共同開発を進めてきたうつ病治療薬「ミルタザピン（一般名）」を、製造販売承認申請いたしました。「ミルタザピン」は、現在世界80カ国以上で販売されており、日本国内においては、両社の開発力を結集し、共同開発開始より3年未満という短期間で製造販売承認申請を達成しました。

「ミルタザピン」は、既存薬とは異なる作用メカニズムを持ち、これまで行われた臨床試験の結果、抗うつ効果の発現が早く、また、嘔気等消化器性症状の副作用が少ないなどの優れた特徴を持っています。従来うつ病治療薬にない特異的な作用メカニズムを有する「ミルタザピン」の臨床使用が可能となれば、抗うつ剤の選択肢が広がるものと期待されます。今後は1日も早い承認取得を目指してまいります。

「キシリッシュ」発売から10周年（1997～2007）



木村 拓哉

新生キシリッシュ



フルーティミント

クリスタルミント

キシリッシュガムは本年度で発売10周年を迎えました。発売以来、戦略テーマ商品として取り組んできた結果、市場シェアは年々拡大し、本年度には15%に迫る勢いです。今や、国内のガム市場において存在感のあるブランドに成長しました。

本年2月に発売した「ガラナミント」と「ローズヒップミント」は、新機軸のコンセプト「モチ息」を打ち出し、大きな話題性とトライアル購入を獲得しました。

また、本年5月に「10周年記念商品」として期間限定で発売した「プラチナミント」は、ガムの中に本物のプラチナを練りこんだ非常にユニークな商品で、味はシャルドネ風味と発売10周年のお祝いにふさわしい商品としてお客様に好評でした。



初代パッケージ



ガラナミント

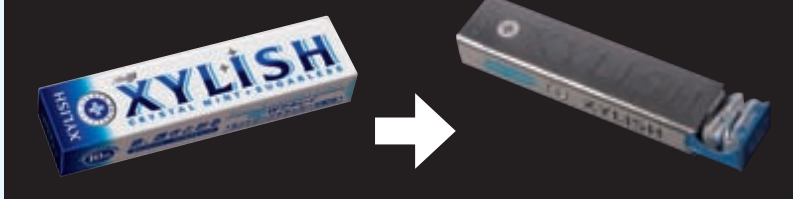


ローズヒップミント

さらに、本年8月には全品リニューアルを実施し、パッケージ・品質・広告タレントを一新し、ブランド強化に取り組みました。パッケージはロゴデザインを見直し、洗練されたデザインに変更、クリスタルミントとフルーティミントでは店頭で存在感のあるメタリックスリーブを採用しました。品質も全品「ミントリーフ+ラッカーゼ」を配合し、ガムに求められる基本ニーズである「息キレイ」機能を強化しました。CMタレントに木村拓哉さんを起用し、新生キシリッシュを強力にアピールすると同時に、さらなる認知拡大を図りました。

このような取組みによりお客様の支持も広がってきており、今後もおしゃれて楽しいブランドとして市場に発信し続けてまいります。

シュリンクフィルムを取るとメタリックスリーブに！
(クリスタルミント・フルーティミント)



新生キシリッシュ



10周年記念商品
プラチナミント

株主優待

～ご寄贈結果のご報告および訪問レポート～

【ご寄贈結果のご報告】

当社では、昨年度より株主優待制度を一部変更し、株主様のご意志により、優待品を福祉団体へご寄贈いただくこともできることといたしました。

今年度は、特定非営利活動法人日本NPOセンター様を通じ、全国の障がいを持つ児童を中心とした支援団体等、合計79団体へ寄贈させていただきました。
 <今年度実績>

- ご寄贈にご賛同いただきました株主様：1,219名
- 株主様からご寄贈いただきました相当金額：338万円
 (なお、当社からも同額相当分寄贈させていただき、合計676万円相当分の寄贈をしております。)

【寄贈先訪問レポートvol.1～さざなみ学園】



新潟県柏崎市にあるさざなみ学園を訪問してきました。株主の皆様からご寄贈いただきましたお菓子をホールで元気いっぱいの子供たちに渡し、食堂でそのお菓子をいただきながら、からだで一生懸命に表現してくれる子供たちと会話をしてみました。

7月に発生した新潟県中越沖地震の影響で、水道が2週間も止まったそうですが、みんなで力を合わせて励ましあいながら乗り越えてきたそうです。



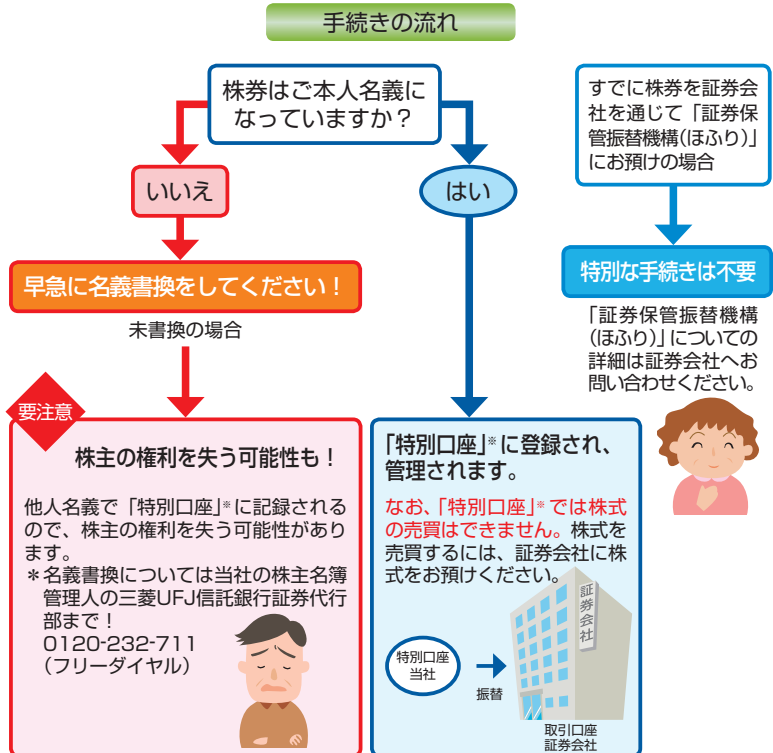
【CSR活動の一環として】

今年度も、当社のCSR（企業の社会的責任）活動の一環としてこの寄贈選択制度を継続実施してまいります。ご理解のほど、よろしくお願いたします。

株券電子化対応に向けて

上場会社の「株券電子化」は経済界・金融界が、平成21年（2009年）1月の実施目標に向けて準備を進めております。

以下の手続きの流れとなっておりますので、株券をお持ちの場合は、必ず裏面の「株主名」欄をご確認ください。



※特別口座…株券電子化に伴い、証券会社を通じて株券を「証券保管振替機構(ほふり)」に預けていない株主の権利を確保するために、自動的に当社が信託銀行等に開設する口座です。

◆名義書換等の手続きはできるだけ早めにお済ませください！

- 株券電子化実施直前は信託銀行・証券会社等の窓口が大変混雑することが予想されます。
- 証券会社に口座を開設する際には、あらかじめ手続き等をご確認ください。

株式の状況

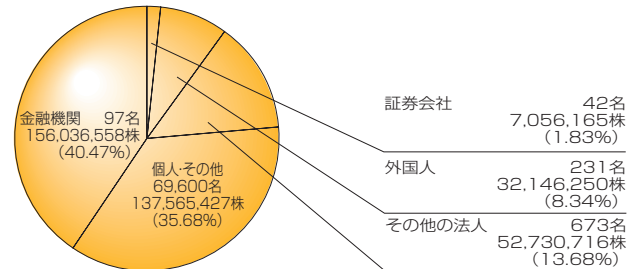
(平成19年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 株主数 70,643名 (前期末に比し2,180名減)
- 大株主 (上位10名)

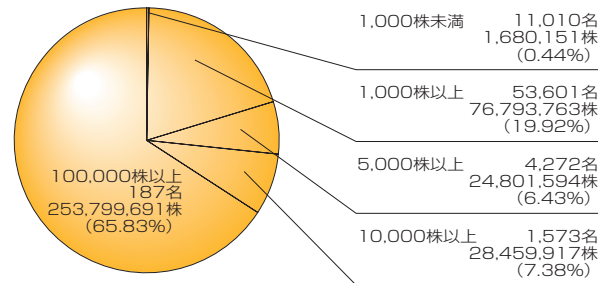
株主名	持株数 (出資比率)
株式会社みずほ銀行	千株 18,763 (4.87%)
第一生命保険相互会社	16,163 (4.19)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	15,964 (4.14)
日本生命保険相互会社	14,707 (3.81)
明治乳業株式会社	10,811 (2.80)
富国生命保険相互会社	10,001 (2.59)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	7,814 (2.03)
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,804 (1.77)
東京海上日動火災保険株式会社	6,512 (1.69)
三菱UFJ信託銀行株式会社	5,481 (1.42)

(注) 当社は自己株式を実質で6,427千株 (出資比率1.67%) 保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

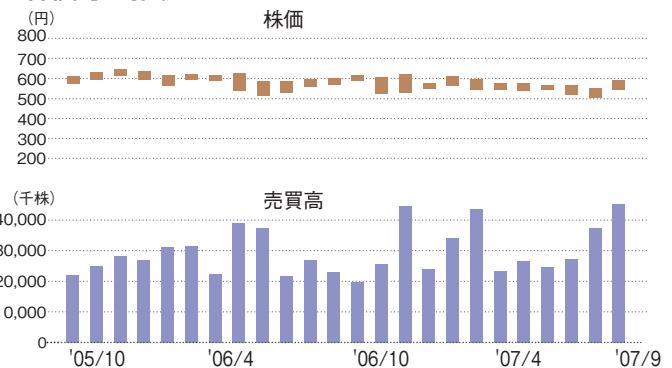
所有者別



持株数別



株価等の推移



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
※別途定める場合は、予め公告します。

定時株主総会 6月下旬

公告方法 日本経済新聞に記載
なお、会社法第440条第4項の規定により決算公告は行っておりません。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部

(電話お問い合わせ
郵便物送付先) 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店
野村證券株式会社全国本支店

**実質株主の諸届
に関する特例** 届出の内容によって証券会社等を経由
すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

単元株式数 1,000株

**単元未満株式の買取
および買増請求場所** 株主名簿管理人事務取扱場所および同取次所
(証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。)

《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金をゆうちょ銀行の貯金口座へお振込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、株主名簿管理人に用紙をご請求ください。
- 当社は、単元未満株式の買増制度を導入しております。単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができます。制度の内容および手続の詳細につきましては株主名簿管理人にご照会ください。

■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を**10月末頃**に贈呈いたします。また、昨年度より寄贈選択制度を設け、株主様のご意志により優待品を株主様へのご送付に代えて福祉団体へご寄贈いただくこともできることといたしました。

- 1,000株以上：2,000円相当
- 3,000株以上：3,500円相当
- 5,000株以上：5,000円相当



●製品は一例です(3,500円相当)。


明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3272-6511(代表)

 ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)

